甲州市文化財調査報告書　第 29 集

平成 29 年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2019

甲州市教育委員会

平成 29 年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2019

甲 州 市 教 育 委 員 会

序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成29年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。29年度は3地点の遺跡について試掘調査を行っており、そのうち1ヶ所は史跡勝沼氏館跡の指定地内の調査になります。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成31年3月29日

甲州市教育委員会

教育長　保坂　一仁

例　言

1　本書は、平成 29 年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
2　事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
3　事業の期間は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までである。
4　本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

凡　例

1　本書中、各遺跡の調査地点を示した図（4ページ）は国土地理院発行の 1/50,000 地形図（御岳昇仙峡、丹波、都留）を改変して使用した。
2　縮尺、方位等は各図中に示した。方位の無いものは真上北である。出土遺物は全て 1/3 としている。
3　遺構平面図・断面図中のトーンは石、土器のトーンは煤の付着を示す。

目　次

序
例言・凡例・目次
第 1 章　遺跡の所在確認業務について…… 1
第 2 章　発掘調査等について…… 1
第 3 章　発掘調査等の概要…… 2
　第 1 節　事業費…… 2
　　1　事業経費収支予算書…… 2
　　2　事業経費収支精算書…… 3
　第 2 節　発掘調査等…… 5
　　1　東田遺跡…… 5
　　2　旗板 1810-4 他…… 13
　　3　勝沼氏館跡…… 17
抄録・奥付

第１章　遺跡の所在確認業務について

平成 29 年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁　甲州市教育委員会教育長
飯島　泉　教育委員会文化財課長
小野正文　文化財課文化財指導監
小倉　真　文化財課歴史まちづくり担当リーダー　雨宮晃一　文化財課文化財保護担当リーダー
岩間大介　文化財課歴史まちづくり担当　入江俊行　文化財課文化財保護担当
齊藤陽介　文化財課歴史まちづくり担当　廣瀬昭久　文化財課文化財保護担当
萩原麻由　文化財課歴史まちづくり担当　柳通めぐみ　文化財課文化財保護担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、29 年度は 277 件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの 256 件、不動産鑑定に伴うもの 21 件であった。

第２章　発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第 93 条及び 94 条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、２件については試掘調査を実施した。また、史跡勝沼氏館跡指定地内において遺構の分布状況を確認するための調査を実施した。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者　入江
発掘調査・整理作業員　雨宮久美子・荏原由美子・栗原礼子・島忠幸・萩原里江子・正木なつ子・
三井喜久男・望月美香・吉原智美

第３章　発掘調査等の概要

第１節　事業費

１　事業経費収支予算書

収入の部

	金　額	備　考
国庫補助金	1,439,000 円	2,878 千円の 50％
県費補助金	534,000 円	2,878 千円の 25％以内
甲州市負担金	905,000 円	
計	2,878,000 円	

支出の部

	金　額	備　考
報償費	0 円	
旅費	0 円	
賃金	1,790,000 円	発掘 170 日× 7,000 円、整理 100 日× 6,000 円
需要費	440,000 円	
消耗品費	60,000 円	調査・整理消耗品
印刷製本費	380,000 円	報告書 1,150 円× 300 冊× 1.08、他写真・資料コピー等
役務費	0 円	
委託料	0 円	
使用料及び賃借料	648,000 円	機械借上げ 32,400 円× 20 日
計	2,878,000 円	

2　事業経費収支精算書

収入の部　　（上段：精算額　下段：予算額）

	金　額	備　考
国庫補助金	1,439,000 円	2,106 千円の 50%
	1,439,000 円	
県費補助金	534,000 円	2,106 千円の 25%以内
	534,000 円	
甲州市負担金	1,137,586 円	
	905,000 円	
計	3,110,586 円	
	2,878,000 円	

支出の部　　（上段：精算額　下段：予算額）

	金　額	備　考
報償費	0 円	
	0 円	
旅費	0 円	
	0 円	
賃金	1,939,500 円	発掘 217.5 日× 7,000 円、整理 6.5 日× 6,000 円
	1,790,000 円	
需要費	313,566 円	
	440,000 円	
消耗品費	119,166 円	鋤簾、ブルーシート、土のう袋、ビニール袋等
	60,000 円	
印刷製本費	194,400 円	平成 28 年度市内遺跡発掘調査等事業報告書
	380,000 円	
役務費	0 円	
	0 円	
委託料	0 円	
	0 円	
使用料及び賃借料	857,520 円	重機借上げ 648,000 円、プレハブ・トイレ 209,520 円
	648,000 円	
計	3,110,586 円	
	2,878,000 円	

平成２９年度市内遺跡発掘調査地点

第２節　発掘調査等

１　東田遺跡

（１）所在地　　甲州市塩山西広門田字東田 89-1,90

（２）調査面積　約 63㎡

（３）調査期間　平成 29 年 10 月 26 日～ 10 月 31 日

（４）調査原因　店舗建設

（５）調査結果

調査地点は塩山西広門田地内に位置し、塩川右岸の微高地上に立地する。当地は埋蔵文化財包蔵地である「東田遺跡」に含まれており、店舗建設が予定されていることから、当該地内における遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施することとなった。

開発対象地区内に４か所の試掘坑（以下Ａ～Ｄトレンチ）を設定した。

Ａトレンチは敷地内の北東側に 13.3 × 1.3m で東西方向に設定した。検出された遺構の性格を確認するため、部分的に 4.8 × 1.9m の範囲を拡張した。地表から深さ 80 ～ 90cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる黄褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、遺構は溝１（１号溝）、ピット（小穴）１を検出し、遺物は古墳時代の土師器破片が出土した。土師器は溝遺構と考えられる一帯から特に集中的に出土している。溝遺構の広がりを確認するため、トレンチの南側の一部を拡張したところ、Ａトレンチ内で長さ 4m、幅約 1.5m を測り、北東から南東方向に走っていることが分かった。溝の深さは約 50cm で、断面は舟底形を呈する。

Ｂトレンチは敷地内の北東側に 13.4 × 1.2m で東西方向に設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、溝１（２号溝）、ピット１を検出し、遺物は古墳時代の土師器片が出土した。溝の深さは約 60cm で、Ａトレンチで確認された溝と同一の溝と推定される。溝内から古墳時代の土師器片が出土していることもＡトレンチの溝と共通する。

Ｃトレンチは敷地内の南西側に 11.3 × 1.2m で東西方向に設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、遺構と判断される落ち込みを４基検出した。遺構の上面からは古墳時代の土師器片が出土している。

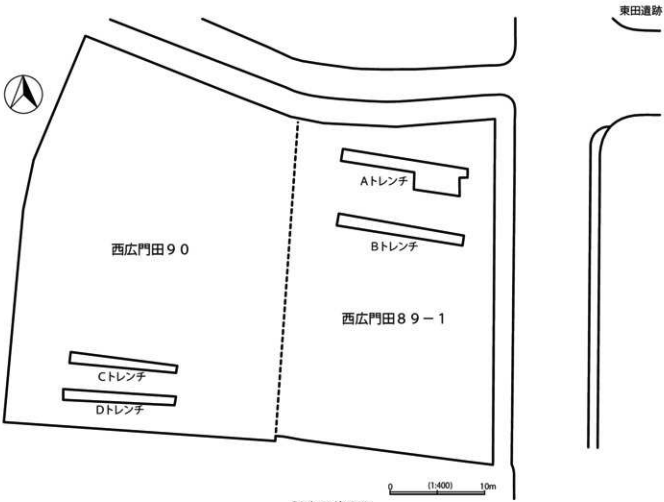
Ｄトレンチは敷地内の南西側に 12 × 1.2m で東西方向に設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、遺構と判断される落ち込みを２基検出した。Ｃトレンチと同様に遺構上面から古墳時代の土師器片が出土している。

（３）まとめ

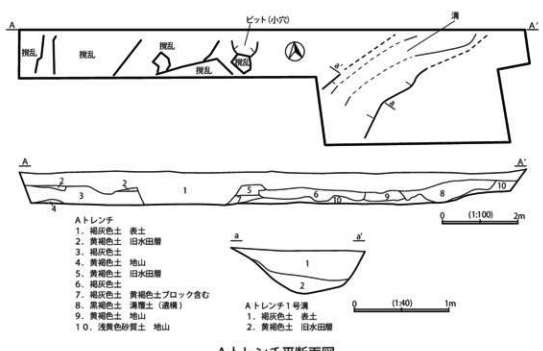
調査の結果、Ａ～Ｄのトレンチから遺構・遺物が発見された。遺物は古墳時代前期の土師器片が主体を占

める。このことから遺構の時期についても、古墳時代前期のものと推定される。当地は古墳時代前期の集落と墓域が発見された西田遺跡の南側に位置しており、おそらくは同遺跡の領域に含まれるものと推定される。

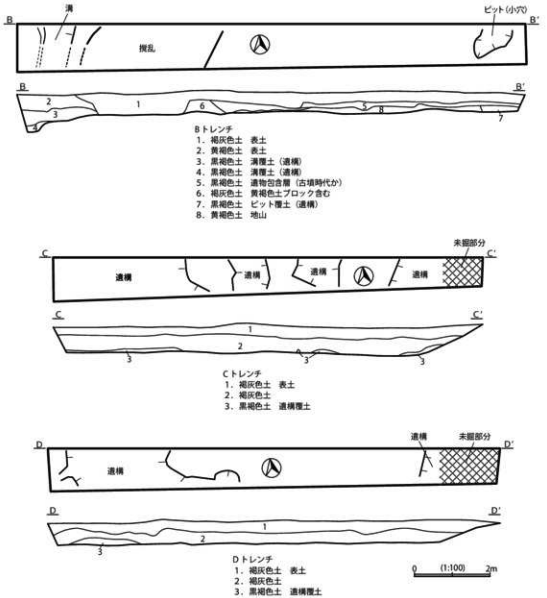
出土遺物は１０点図示した。１から６は土師器でＡトレンチ出土。１・２は壺で同一個体と考えられる。３は甕、４は甑底部、５・６は台付甕の脚部。７から１０は土師器でＢトレンチ出土。７は壺口縁部破片、８はＳ字状口縁台付甕の口縁から胴部にかけての破片で、ナナメハケ後、横ハケを施す。９は高坏脚部破片、１０は台付甕の脚部。



調査区位置図

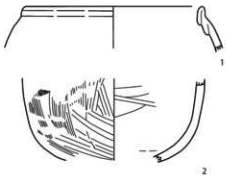


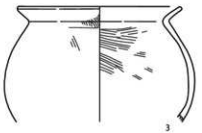
Aトレンチ平断面図



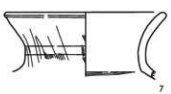
B・C・Dトレンチ平断面図

Aトレンチ





Bトレンチ



出土遺物

Aトレンチ土層断面（南東から）

Aトレンチ溝検出状況（南西から）

Aトレンチ溝断面（北東から）

Aトレンチ溝下層遺物出土状況

Bトレンチ土層断面（南東から）

Bトレンチ遺構検出状況（西から）

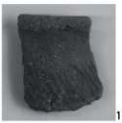
Bトレンチ溝内遺物検出状況

Cトレンチ土層断面（南西から）

Cトレンチ遺構検出状況（西から）

Dトレンチ土層断面（南西から）

Dトレンチ遺構検出状況（南西から）


1

2

3

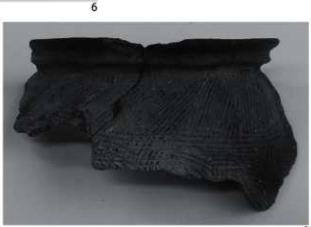
4　立面

4　裏

5

6

7


8

9

10

2　旗板 1810-4 他

（1）所在地　　甲州市塩山上於曽字旗板 1810-4 他

（2）調査面積　約 28.5㎡

（3）調査期間　平成 29 年 12 月 4 日～ 12 月 13 日

（4）調査原因　宿泊施設建設

（5）調査結果

調査地点は塩山駅から南西 100 mの距離に位置する。当地は埋蔵文化財包蔵地に含まれていないが、南側には県の史跡「於曽屋敷」が近い距離にある。当地は以前、大型の店舗が建てられていたが、その後建物を解体して、現在は駐車場として利用されている。このたび宿泊施設の建設が予定されたことから、遺跡の有無や残存状況を確認するための試掘調査を実施することとなった。

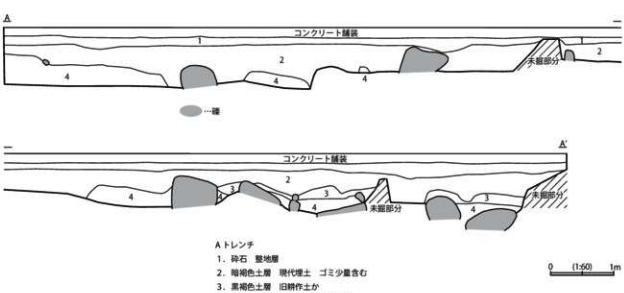
開発対象地区内に 1 か所の試掘坑（A トレンチ）を設定した。

A トレンチは敷地内の北東側に 19.0 × 1.5m で東西方向に設定し、カッターで表面のコンクリートを除去し、表土掘削を行った。地表面から深さ 60 ～ 90cm まで掘り下げ、基盤層（地山）と考えられる大型礫を含む黄褐色砂質土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行ったが、遺構は検出されなかった。コンクリート（厚さ 15cm）の下、1 層は砕石層で厚さ 10cm、2 層は暗褐色土層で現代の埋土で厚さに幅はあるが、30 ～ 60cm の厚さで堆積している。コンクリート基礎も確認される。3 層は黒褐色土層で部分的に 10 ～ 15cm 程度残存しており、旧耕作土と考えられるが、時期は不明。4 層は黄褐色砂質土層で礫を含み、基盤層（地山）と考えられる。また、遺物は検出されなかった。

調査の結果、当地は著しい削平を受けていたことが確認された。削平した面に建物の基礎が入っていることから、以前に存在した大型店舗建設時のものと考えられる。土層堆積から古い地層がほとんど確認できず、地山面もある程度削られていることが観察された。

調査区内から遺構・遺物が確認できなかったこと、また大規模な削平がすでに行われていることから、当地内には、遺跡は存在または残存していないものと推定される。

調査区位置図



Aトレンチ
1．砕石　整地層
2．暗褐色土層　現代堆土　ゴミ少量含む
3．黒褐色土層　旧耕作土か
4．黄褐色砂質土層　礫を含む　地山

Aトレンチ土層断面図

Aトレンチ遺構確認状況（西から）

Aトレンチ遺構確認状況（東から）

Aトレンチ土層断面（南西から）

Aトレンチ東半土層断面（南西から）

3　勝沼氏館跡

（1）所在地　　甲州市勝沼町勝沼 2517-2,2472-4,2472-1,2457-3,2457-4,2457-1,2455,2439,
2458-1,2458-2

（2）調査面積　約 529.5㎡

（3）調査期間　平成 29 年 12 月 11 日～平成 30 年 3 月 30 日

（4）調査原因　史跡整備

（5）調査結果

調査の目的と方法

今回の調査対象は勝沼氏館跡東郭の一部と郭外である。この一帯は今後整備が予定されているため、必要な情報を獲得するため遺構確認調査を実施する。

過去の調査では、昭和５２年、史跡指定に先駆けて「外郭部及び周辺地域の遺構確認調査」が実施されており、この時の調査によれば、東郭からは三段の石積遺構や土塁跡が検出されている。また、郭外の範囲からは遺構は確認されず、土師質土器のみが検出されたという（山梨県教育委員会ほか『勝沼氏館跡調査概報Ⅲ』１９７８年）。隣接するＧ・Ｆ区（ワインセンター進入路北側）は平成４年～１６年にかけて発掘調査が行われており、南北土塁を境として、西側に東郭内の遺構群（工房跡と推定）、東側に家臣屋敷地と推定されるような建物群が検出されている。

このような調査成果も踏まえ、今回の調査対象部分では以下のような課題を解明することが調査の目的となる。

①南北土塁およびこれに付随する堀、土塁脇側溝の延長部分を確認する。土塁や堀の位置が明らかになることにより、館の東側における境界がより明確となる。

②南北土塁西側に相当する、東郭内の遺構群を確認する。郭内の遺構として、掘立柱建物跡や水路跡などの存在が想定される。

③南北土塁東側に相当する、郭外の遺構群（家臣屋敷地と推定）を確認する。家臣屋敷に関連するものとして、掘立柱建物跡や井戸等の存在が想定される。

今回の調査対象区一帯に展開する遺構群の分布状況等を明らかにすることにより、今後の調査や整備を実施するために必要な情報を獲得する。

対象地内にトレンチを２０本程度設定し、遺構確認を行う。原則として遺構の掘削は実施しないが、実施する場合には最小限度に止めるものとする。遺構確認後は、写真（空撮・個別）・図面（測量・個別）等で記録した後、埋め戻しを行う。

調査の成果

対象地内にＡ～Ｍトレンチまで大小２１か所のトレンチを設定した。

①Ａ・Ｂ・Ｃトレンチ（勝沼 2517-2、2472-4）

Ａトレンチは東西方向に長さ 14.3m、幅 1.4m で設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところで、

地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構２本、石列遺構１基、ピット８基を検出した。東端から検出された溝状遺構はトレンチの外まで延びるため規模は不明だが、幅 3m 以上とみられる。溝状遺構からは礫が多く検出されており、一部石列とみられるものもあった。この石列の可能性を検討するため、南側に拡張トレンチ（a トレンチ）を設定して調査したところ、延長線上にも石列が並んでいることが分かり、これらの礫も遺構を構成する要素であることが判明した。溝状遺構と重複した別遺構と考えられる。遺物は陶器（天目、古瀬戸、常滑）、磁器（近世～近代）、土器（摩耗、甕、土師質土器）、鉄製品（現代の番線）、ガラス製品（薬瓶）の破片が出土している。

Bトレンチは東西方向に長さ 16.5m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 50cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構２本、ピット２基を検出した。また、東半は大規模な撹乱により破壊されていた。遺物は陶器（注口、碗）、磁器（現代）、土器（摩耗、擂鉢、縄文）、鉄製品（鉄鏃？）、ガラス製品（薬瓶）、石器（打製石斧）の破片が出土している。

Cトレンチは東西方向に長さ 15.3m、幅 2.4m で設定した。地表から深さ 50 ～ 70cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構４本を検出した。また東半は谷状地形となっており、東方へ緩やかに落ち込み、トレンチ端では地表下 1.4m で地山面が検出された。遺物は陶器（常滑）、磁器（近現代）、土器（摩耗、坏、甕、土師質土器、縄文）、銅製品（透孔のある銅板）、ガラス（小片）、石器（打製石斧か）が出土している。

なお、A～Cトレンチで検出されている溝状遺構はいずれも南北溝で、各トレンチ西端で検出されている溝は、位置関係から、同一の溝（南北溝）と考えられる。

②D１・E１・F１トレンチ（勝沼 2472-1）

D１トレンチは東西方向に長さ 14.9m、幅 2m で設定した。地表から深さ 90cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構１本、土坑２基、ピット３基、不整形遺構１基を検出した。土坑のうち一つは、焼土粒、炭化物粒を多く含むもので、火に関連する遺構と考えられる。廃棄土坑の類かもしれない。もうひとつは隅丸方形の一部にも見え、トレンチ外に延びるものの 5m 程度の幅を持つことから、竪穴建物の一部の可能性がある。不整形遺構はピット２基とも重複しており、平面形がはっきりしない。ピットや溝状遺構の類かもしれない。遺物は陶器（縁折皿、常滑）、磁器（青磁口縁、近現代の染付）、土器（縄文、土師器、土師質土器、置きカマド脚部）、ガラス（小片）、石器（黒曜石・水晶破片、打製石斧）が出土している。

E１トレンチは東西方向に長さ 16.3m、幅 2.1m で設定した。地表から深さ 80 ～ 90cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構１本、ピット１基、石列１基を検出した。また、土塁の痕跡をトレンチ土層から確認している。検出された土塁の幅は石列から巨礫の間で、約 8m を測り、この間の土層堆積状況を見ると、１層あたり 5cm ～ 10cm の層厚で、黄褐色土、黒褐色土が互層堆積となっていた。なお、土塁の基底部は遺構確認面上では黒褐色土となっており、土塁の一部なのか別遺構なのか判然としない。土塁は基底幅 8m の南北土塁であったと想定されるが、北側

のＤ１、南側のＦ１トレンチからは同様な土塁痕跡は発見されておらず、Ｅ１トレンチ地点付近のみ部分的に残存したものとみられる。遺物は陶器（常滑？）、磁器（近現代）、土器（摩耗、縄文、土師器、土師質土器、土管）、ガラス（小片）、石器（打製石斧、黒曜石・水晶小片）が出土している。

Ｆ１トレンチは東西方向に長さ 17.6m、幅 1.9m で設定した。地表から深さ 50 ～ 60cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構１本、ピット４基を検出した。トレンチ西半は谷状地形となっており、西端では地表下 2.1m まで落ち込んでいる。西側に位置するＣトレンチでも東半は谷状地形となっており、Ｆ１トレンチとＣトレンチとの間は谷状の旧地形であったことが判明した。また、Ｆ１トレンチの谷内から石列が確認されている。土留めまたは区画の機能を持つものと考えられるが部分的な検出であり、性格は判然としない。遺物は磁器（近現代の碗）、土器（縄文、土師器坏、土師質土器）、石器（水晶小片）が出土している。

③Ｄ２・Ｅ２・Ｆ２・Ｇ・Ｈトレンチ（勝沼 2457-1,-3,-4）

Ｄ２トレンチは東西方向に長さ 20.2m、幅 2m で設定した。トレンチの中央部は生きた畑灌の管が入っており、破損を避けるため未調査とした。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところで、遺構確認を行った。これまで遺構検出をおこなっていた黄褐色砂質土層は部分的に確認されるのみで、その下層の黒褐色土層がトレンチ全面から検出されたため、この上面を遺構確認面とした。なお、この黒褐色土層中からは縄文土器片が検出されており、縄文包含層として中世の地山面を形成していたと考えられる。

遺構検出の結果、石組遺構１基とピット７基を検出した。石組遺構は全体の平面形は不明だが、３列確認できる。列の間隔は 20 ～ 30cm で、いずれもわずかに弧状を呈しており、溝跡と推定される。ピットは直径 20 ～ 40cm で円形、不整円形で構成される。トレンチ内での配置に規則性は見出せないが、まとまって検出されており、建物遺構等の一部の可能性もある。遺物は陶器（碗小片）、磁器（近世）、土器（摩耗、縄文、土師器、土師質土器などの破片）、石器（黒曜石・水晶・チャート小片）が出土している。

Ｅ２トレンチは東西方向に長さ 18m、幅 2m で設定した。地表から深さ 60 ～ 80cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。石組遺構１基、ピット５基を検出した。石組遺構は南北方向に２列確認できる。東側の石列の方が大型の石を用いており、西側に対して面が揃っている。西側の石列は小型の石を用い、面が揃っておらず、東側石列の天端に対して一段低くなり、段差が存在する。こうしたことから、敷地の境界・区画を意図した溝状遺構と考えられる。トレンチ西端は谷状に落ち込んでいる。同様の落ち込みは南側に設定したＦ２トレンチからも検出されており、同じ遺構（溝）または同じ地形（谷）と考えられる。遺物は陶器（碗小片）、磁器（碗小片）、土器（摩耗、縄文、土師器などの小片）、石器（水晶小片、凹石？）が出土している。

Ｆ２トレンチは東西方向に長さ 16.9m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 40 ～ 60cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。南北方向に走る溝状遺構を２本検出した。トレンチ西端はＥ２トレンチ同様、谷状に落ち込んでいる。遺物は陶器（小片）、磁器（小片）、土器（摩耗、土師器、土師質土器小片）、石器（打製石斧、黒曜石小片）が出土している。

Gトレンチは南北方向に長さ 13.8m、幅 2m で設定した。地表から深さ 30 ～ 50cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。不明土坑 1 基、ピット 3 基を検出した。不明土坑は調査区外に延び、平面形態がはっきりしない。拳大程度の礫が含まれ、落ち込みの可能性もある。遺物は陶器（碗小片）、磁器（碗小片）、土器（摩耗、縄文、土師器、土師質土器）、石器（黒曜石小片）が出土している。

Hトレンチは南北方向に長さ 17.1m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 40 ～ 60cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層をトレンチの北端から検出したが、トレンチの中央部から南端にかけては砂礫層となり、遺構は検出されなかった。砂礫層は花崗岩が風化したもので、河川など水の影響を受けて形成されたものではないと考えられる。Hトレンチの南側に 2m 四方のサブトレンチ（h）を設定して調査したが、地表下 20cm で拳大～人頭大の礫（花崗岩）が検出され、遺構は検出されなかった。Hトレンチと同様な堆積状況が広がっているものと考えられる。遺物は陶器（小片）、石器（水晶小片）が出土している。

④Ｉ・Ｊトレンチ（勝沼 2455）

Ｉトレンチは南北方向に長さ 6.7m、幅 2m で設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたが、ここでもHトレンチと同様の砂礫層が広がっており、遺構は検出されなかった。なおトレンチ南半は近代の撹乱を受けて地表下 1.5m まで破壊されていた。遺物は出土しなかった。

Ｊトレンチは東西方向に長さ 16.7m、幅 2.1m で設定した。地表から深さ 50 ～ 70cm まで掘り下げたが、H・Ｉトレンチと同様の砂礫層が広がっており、遺構は検出されなかった。近代の撹乱を 2 か所確認した。遺物は出土しなかった。

Hトレンチから東のＩ・Ｊトレンチにかけては、風化花崗岩を主体とした砂礫層が広がっており、遺構を確認することが出来なかった。未調査部分に遺構が存在する可能性はあるものの、遺構の分布状況はGトレンチ以西と比べて薄いと言わざるを得ず、この一帯で館に関連するような土地利用が行われていたかどうかは疑問である。

⑤Ｋ１・Ｋ２・Ｌ１・Ｌ２トレンチ（勝沼 2458-1,-2）

Ｋ１トレンチは南北方向に長さ 17.3m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 80cm まで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、一旦この面で遺構検出を行うこととしたが、遺構は検出されなかった。さらに下層の土層堆積状況を調べるため、この黒褐色土を掘り下げたところ、この土層中から摩耗した縄文土器片が検出された。Ｄ２トレンチで確認された縄文包含層と同様の土層と判断される。この層は拳大～人頭大、また直径 1 m以上の巨礫を含んでおり、地形上も周囲から 1 段低い地点であることから、多くは流れ込みによるものと考えられる。地表下 1 ～ 1.3m で暗茶褐色土層に変わり、これが本来の地山と考えられるが、ここでも遺構は確認できなかった。遺物は土器（摩耗、縄文、土師器小片）、石器（石鏃、打製石斧、黒曜石・水晶小片、チャート小片）が出土している。

Ｋ２トレンチは南北方向に長さ14.2m、幅1.9mで設定した。地表から深さ60cmまで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、この面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は陶器（小片）、磁器（青磁碗、染付小片）、土器（摩耗、縄文？、土師器、土師質土器小片）、石器（黒曜石・水晶・チャート小片）が出土している。

Ｌ１トレンチは東西方向に長さ12.5m、幅1.8mで設定した。地表から深さ１～1.1mまで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、この面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は磁器（碗小片）、土器（摩耗、縄文、鉢、高台付坏破片）、石器（黒曜石小片）が出土している。

Ｌ２トレンチは東西方向に長さ14.4m、幅2mで設定した。地表から深さ60～70cmまで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、この面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は磁器（染付小片）、土器（摩耗、縄文？、土師器、土師質土器小片）、石器（石鏃小片、黒曜石・水晶小片）が出土している。

Ｋ１・２、Ｌ１・２トレンチのある地点は、いずれも縄文包含層と考えられる黒褐色土が堆積しており、他の地点と土層堆積状況が異なっている。この地点は周囲から遺構は検出されなかったが、Ｋ１・２トレンチ、Ｌ２トレンチから黄褐色土が薄く水平に堆積した状態で検出されており、時期は不明であるが水田の痕跡と考えられる。

⑥Ｍ１・Ｍ２トレンチ（勝沼2439）

Ｍ１トレンチは東西方向に長さ9.6m、幅1.9mで設定した。地表から深さ70cmまで掘り下げたところで、地山と考えられる暗黄褐色土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構２本、ピット５基を検出した。溝状遺構はいずれも南北溝で、幅は10cm、20cmと、それぞれ小規模なものである。ピットは重複していびつな不整形となっているが、ここではまとめて１基と数えた。トレンチの東端付近から拳大の礫が顕著にみられ、直線的に１列に並ぶようにみえる部分もあるが、遺構なのか判然としない。遺物は陶器（甕、天目茶碗破片）、磁器（白磁・染付破片）、土器（縄文、土師器、土師質土器、茶釜小片）、石器（水晶小片）が出土している。

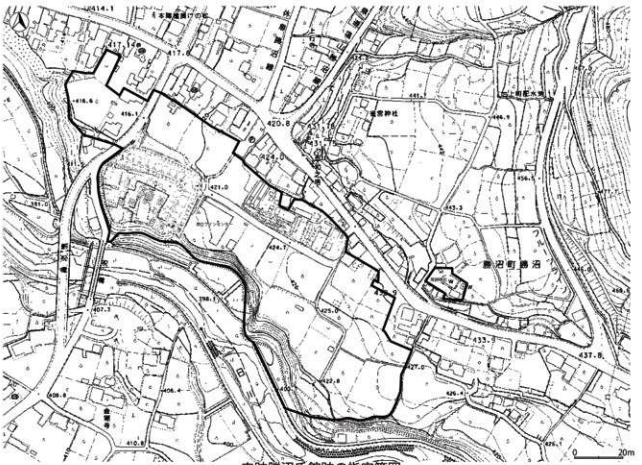
Ｍ２トレンチは東西方向に長さ17.2m、幅1.8mで設定した。地表から深さ30～40cmまで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構１本、ピット10基を検出した。溝状遺構は南北溝で、幅1.5mを測る。ピットは東西方向に４基、3.6m幅で等間隔に並ぶものがあり、建物等の遺構の一部とみられるものがある。遺物は陶器（碗・皿小片）、磁器（染付小片）、土器（摩耗、土師器、土師質土器、瓦質土器小片）ガラス（小片・現代）、石器（水晶小片）が出土している。

総括

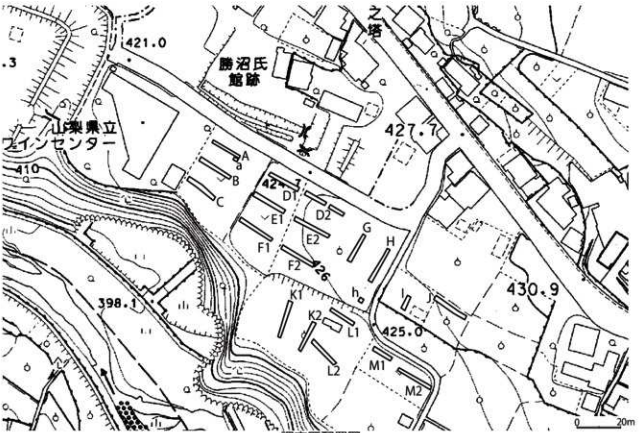
以上、調査を行った各トレンチの遺構・遺物の検出状況について、概観した。遺構の分布に粗密がみられるが、概ね、全体にわたって遺跡が展開していることが再確認できた。今回の調査では建物遺構の把握には至らなかったが、土塁、溝、土坑などの遺構の他にも埋没谷などのように、地形が大きく改変された痕跡も

確認することができた。今回確認された遺構の詳細や、無遺構部分がどのような意味を持つかについては今後の調査によって明らかにすべき課題といえる。

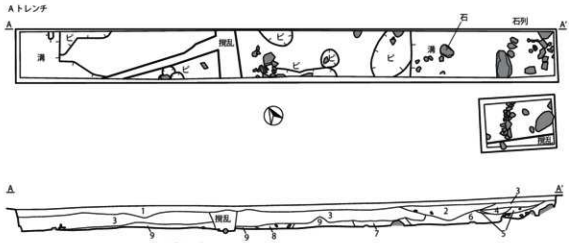
出土遺物については小片がほとんどであるが、土師質土器（かわらけ）など器形が明らかなものも出土している。１４点を図示した。１から６はＣトレンチの谷から出土したもので、１は土師器坏、２から６は土師質土器（かわらけ）である。７はＤトレンチ出土、８・９はＦ２トレンチ出土、１０はＧトレンチ出土、１１はＭトレンチ出土で、いずれも土師質土器。２、５、６、９は煤の付着を確認でき、灯明皿として使用されたと考えられる。１２はＫ２トレンチ出土、青磁碗の口縁部破片。１３はＭ２トレンチ出土、染付碗の底部破片。１４はＣトレンチ出土、板状の銅製品で菱形の透孔が三か所ある。



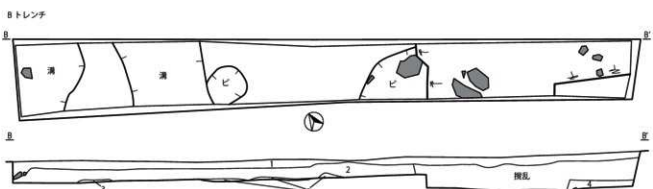
史跡勝沼氏館跡の指定範囲



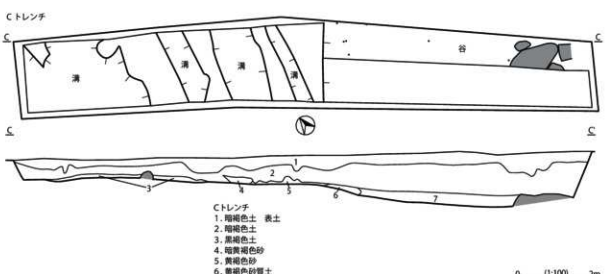
調査区配置図



Aトレンチ
1. 暗褐色土　表土
2. 暗灰色土　砂粒を含む
3. 褐灰色土　砂粒を少量含む、炭化物微量含む
4. 暗灰色土　灰を多く含む
5. 暗褐色土　小礫、砂粒微量含む
6. 黒褐色土　風化礫や礫を多く含む、遺構か
7. 灰黄褐色砂質土　礫を少量含む、砂粒含む、脆弱
8. 暗褐色土　礫を少量含む、遺構か
9. 黄灰褐色土　風化礫を微量含む、地山

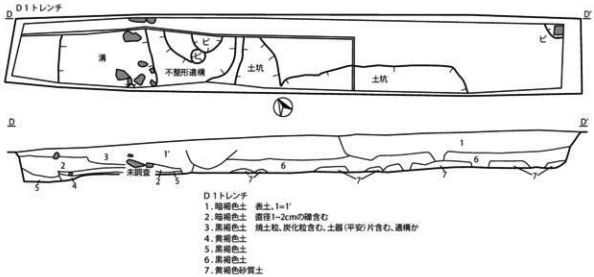


Bトレンチ
1. 暗褐色土　表土
2. 暗褐色土　耕作土
3. 黄褐色土　地山
4. 暗黄褐色砂　礫含む、地山

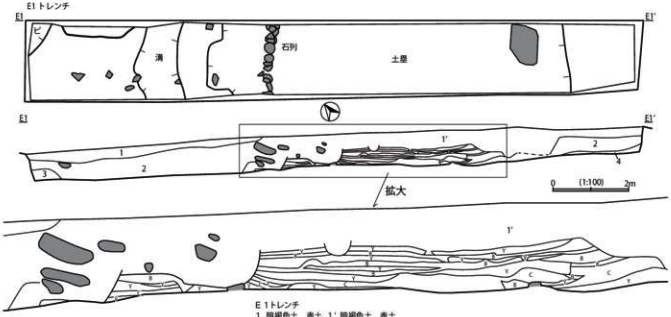


Cトレンチ
1. 暗褐色土　表土
2. 暗褐色土
3. 黒褐色土
4. 暗黄褐色砂
5. 黄褐色砂
6. 黄褐色砂質土
7. 暗茶褐色土

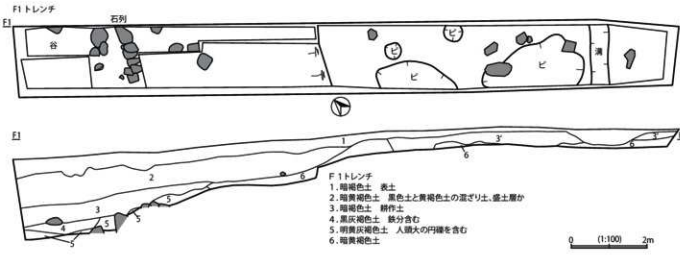
A・B・Cトレンチ平断面図



D 1トレンチ
1．暗褐色土　表土、1=1'
2．暗褐色土　直径1~2cmの礫含む
3．黒褐色土　焼土粗、炭化粒含む、土器（平安）片含む、遺構か
4．黄褐色土
5．黒褐色土
6．黒褐色土
7．黄褐色砂質土

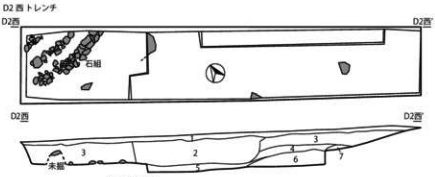


E 1トレンチ
1．暗褐色土　表土、1'．暗褐色土　表土
2．暗褐色土　耕作土
3．暗褐色土　遺構か
4．黄褐色土
Y…黄褐色土　しまりあり、粘性あり、土塁跡
B…黒褐色土　しまりあり、粘性あり、土塁跡
C…茶褐色土　しまりあり、粘性あり、土塁跡

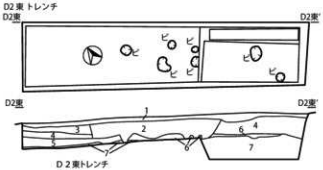


F 1トレンチ
1．暗褐色土　表土
2．暗黄褐色土　黒色土と黄褐色土の混ざり土、盛土層か
3．暗褐色土　耕作土
4．黒灰褐色土　鉄分含む
5．明黄灰褐色土　人頭大の円礫を含む
6．暗黄褐色土

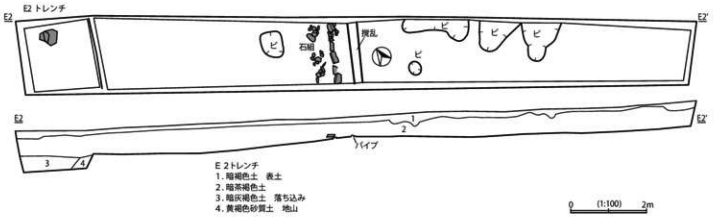
D 1・E 1・F 1トレンチ平断面図



D２西トレンチ
1. 暗褐色土　表土
2. 暗褐色土　撹乱
3. 暗灰褐色土
4. 黒褐色土
5. 灰褐色土
6. 黒褐色土　しまり強、土器(縄文、平安)片微量含む。
7. 灰黄褐色土　礫含む
※6・7層は中世地山層か

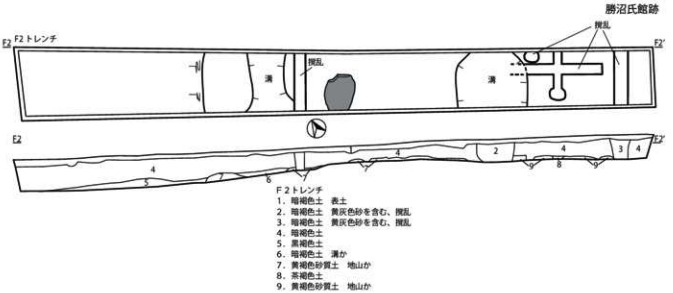


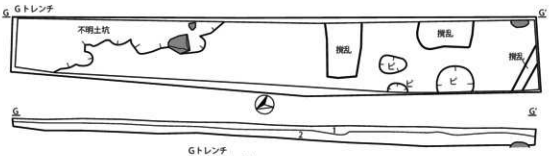
D２東トレンチ
1. 表土
2. 撹乱
3. 表土
4. 暗灰褐色土
5. 黒褐色土
6. 黄褐色砂質土
7. 黒褐色土　しまり強、土器(縄文、平安)片微量含む。

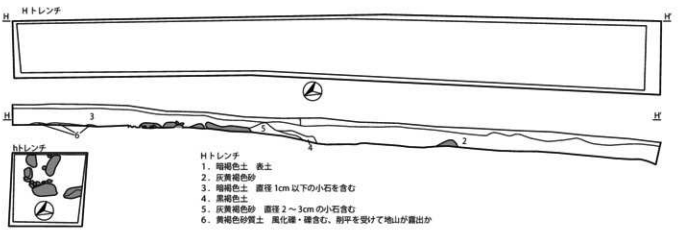


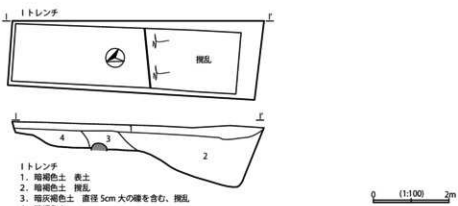
E２トレンチ
1. 暗褐色土　表土
2. 暗茶褐色土
3. 暗灰褐色土　落ち込み
4. 黄褐色砂質土　地山

D２・E２トレンチ平断面図

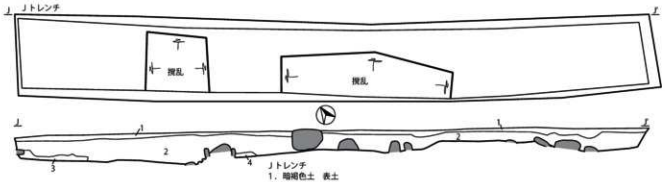




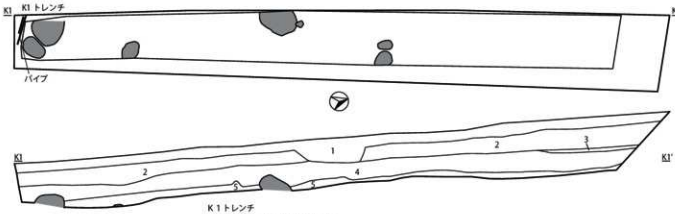




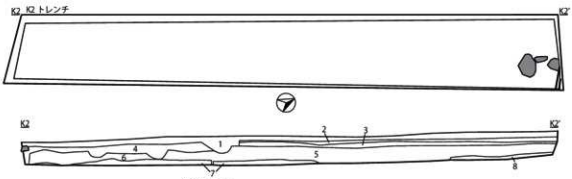
F２・G・H・Ｉトレンチ平断面図



J トレンチ
1．暗褐色土　表土
2．暗灰褐色土
3．明黄褐色砂　地山
4．黒褐色土



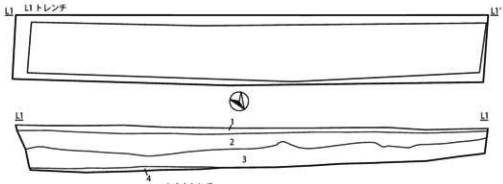
K 1 トレンチ
1．暗褐色土　小礫少量含む、表土
2．暗褐色土　小礫少量含む、耕作土
3．暗黄褐色土　水田床土か
4．黒褐色土　しまり強、粘性あり、拳大～直径 50cm 程度の礫を多く含む、
　摩耗した縄文土器片を含む。
5．暗茶褐色土　シルト質、雲母含む、地山



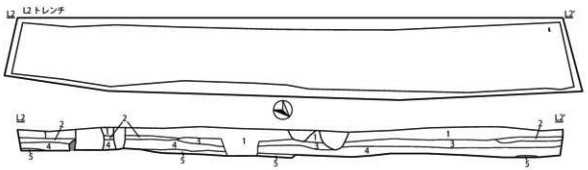
K 2 トレンチ
1．暗褐色土　表土
2．灰褐色土　水田層
3．黄褐色土　水田床土か
4．暗褐色土
5．暗褐色土　旧耕作土か
6．暗褐色土
7．暗黄褐色土　旧水田床土か
8．黒褐色土　しまりやや強、粘性あり、地山

0　(1:100)　2m

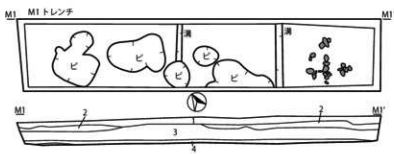
J・K 1・K 2 トレンチ平断面図



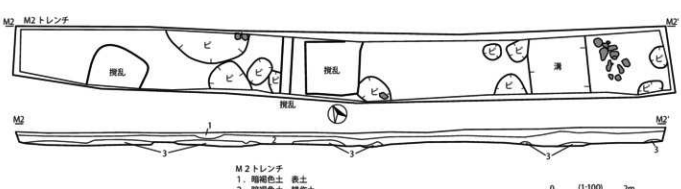
L 1 トレンチ
1．暗褐色土　表土
2．暗褐色土　耕作土
3．暗灰褐色土
4．黒褐色土　しまり強。縄文土器片を含む。



L 2 トレンチ
1．暗褐色土　表土
2．暗黄褐色土　水田床土か
3．黒褐色土　直径 1 ～ 5cm の礫を少量含む
4．暗褐色土　直径 1 ～ 5cm の礫を微量含む
5．黒褐色土　しまり強、地山。

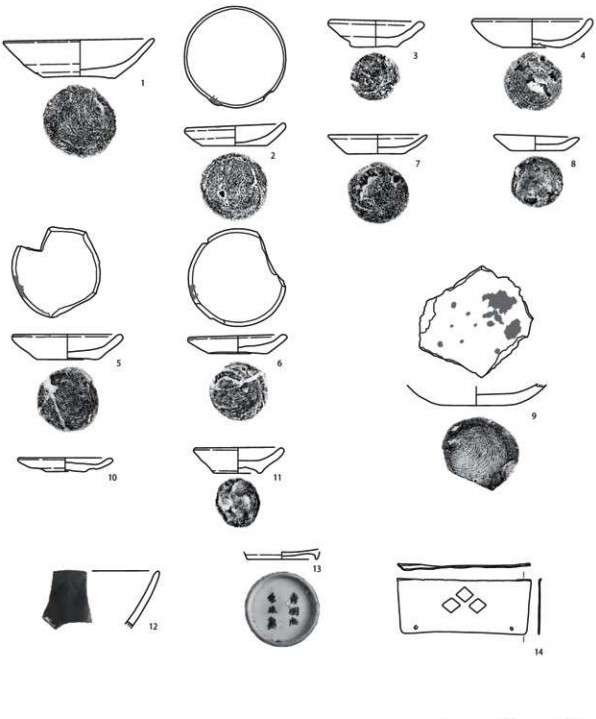


M 1 トレンチ
1．暗褐色土　表土
2．黄褐色土　水田床土か
3．暗褐色土　耕作土、直径 1 ～ 5cm、小石含む
4．暗灰褐色土



M 2 トレンチ
1．暗褐色土　表土
2．暗褐色土　耕作土
3．黄褐色土　地山

L 1・L 2・M 1・M 2トレンチ平断面図



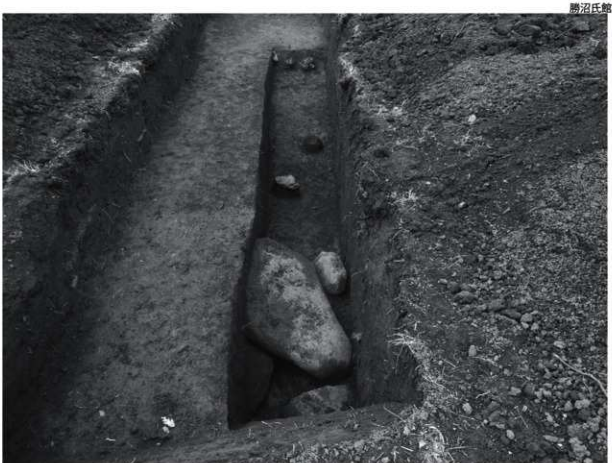
出土遺物

Aトレンチ土層断面（西から）

Aトレンチ東端部石列確認状況（東から）

Bトレンチ土層断面（西から）

Cトレンチ東端部谷土層断面（西から）



Cトレンチ谷確認状況（東から）

Cトレンチ谷内遺物出土状況

Ｄ１トレンチ土層断面（西から）

Ｄ２トレンチ西端石組遺構確認状況（東から）

Ｄ２東トレンチ土層断面（南から）

Ｅ１トレンチ土層断面（西から）

Ｅ１トレンチ土層断面

Ｅ２トレンチ土層断面（西から）

Ｅ２トレンチ石組遺構確認状況（南西から）

Ｆ１トレンチ土層断面（西から）

Ｆ１トレンチ谷（南西から）

Ｆ１トレンチ谷部石列（西から）

Ｆ２トレンチ遺構確認状況（西から）

Ｇトレンチ遺構確認状況（北から）

Ｆ２トレンチ土層断面（西から）

Gトレンチ土層断面（南西から）

Hトレンチ遺構確認状況（南から）

Hトレンチ土層断面（南西から）

hトレンチ遺構確認状況（南から）

Ⅰトレンチ土層断面（北西から）

Ｊトレンチ土層断面（西から）

Ｋ１トレンチ遺構確認状況（南から）

Ｋ１トレンチ土層断面（北東から）

Ｋ２トレンチ土層断面（北東から）

Ｌ１トレンチ土層断面（東から）

Ｌ１トレンチ遺構確認状況（南東から）

Ｌ２トレンチ土層断面（北から）

M１トレンチ土層断面（西から）

M１トレンチ（南東から）

Ｍ２トレンチ土層断面（西から）

Ｍ２トレンチ遺構確認状況（南東から）

1

2～6

7

8

9

10

11

12

13

14

報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成 29 年度　市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 29 集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒 404-8501　山梨県甲州市塩山上於曽 1085-1　電話 0553-32-5076
発行年月日	平成 31 年 3 月 29 日

ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ひがしだいせき 東田遺跡	こうしゅうしえんざんかわかみ 甲州市塩山西広門田 みどのがしど 字東田 89-1,90	19213	塩 7	35° 41′ 20″	138° 43′ 21″	平成 29 年 10 月 26 日～ 31 日	約 63㎡	店舗建設
はていた 旗板 1810-4 他	こうしゅうしえんざんかみそ 甲州市塩山上於曽 みどでいた 字旗板 1810-4 他	19213	なし	35° 42′ 17″	138° 43′ 59″	平成 29 年 12 月 4 日～ 13 日	約 28.5㎡	宿泊施設建設
かつぬまし やかたあと 勝沼氏館跡	こうしゅうしかつぬまちょうかつぬま 甲州市勝沼町勝沼 みどーふ 字御所 2517-2 他	19213	勝 40	35° 39′ 32″	138° 44′ 00″	平成 29 年 12 月 11 日～ 平成 30 年 3 月 30 日	約 529.5㎡	史跡整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東田遺跡	集落	古墳	溝、土坑	土師器	
旗板 1810-4 他	包蔵地外	—	なし	なし	
勝沼氏館跡	城館	中世	溝、土坑、石組遺構、土塁跡、埋没谷	縄文土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、石器など	

山梨県甲州市
平成 29 年度　市内遺跡発掘調査等事業報告書
２０１９
発行　甲州市教育委員会
住所　山梨県甲州市塩山上於曽 1085-1
電話　0553-32-5076
発行日　平成 31 年 3 月 29 日
印刷　株式会社　峡南堂印刷所